

令和 7 年度事業報告

I 概要

1. 法人の概要

- (1) 設立年月日 平成 9 年 6 月 18 日
寄付行為の変更許可 平成 11 年 6 月 3 日
公益財団法人移行 平成 24 年 4 月 1 日

(2) 定款に定める目的

本財団は、国内におけるバイオテクノロジー関連の研究活動に対し助成するとともに、バイオテクノロジー技術の交流及び普及を図り、国内産業の育成及び発展に貢献することを目的とする。

(3) 定款に定める事業内容

- ① バイオテクノロジー関連の研究活動に取り組む国内の団体又は個人に対する助成
② バイオテクノロジーに関連する研究会及び講演会の開催並びに研究諸団体への講師の斡旋
③ バイオテクノロジー技術の普及及び啓発
④ 前号までに掲げるもののほか、前項の目的を達成するため必要と認める事業

(4) 所管官庁

内閣府 大臣官房公益法人行政担当室

(5) 主たる事務所

長野県長野市大字南堀 1 3 8 - 1

(6) 役員に関する事項

役 職	氏 名	常勤・非常勤の別	現 職
理事長	水野 雅義	非常勤	ホクト㈱代表取締役社長
副理事長	藤澤 義章	〃	藤澤義章税理士事務所税理士
理事	宮原 慎吾	〃	ホクト㈱執行役員総務部長
理事	石田 治	〃	社会福祉法人治敬会常務理事
理事	宮下 正典	〃	弁護士
理事	西宮 登喜男	〃	㈱綿内瓦工業代表取締役会長
監事	上野 紘志	〃	公認会計士
監事	水城 由貴	〃	公認会計士・税理士

Ⅱ 組織運営

1. 理事会

令和7年度第1回理事会(令和7年5月8日 ホクト株式会社 会議室)

- ① 令和6年度事業報告及び決算承認の件
- ② 令和7年度第1回評議員会の招集の件
- ③ 任期満了に伴う理事・監事候補者選出の件

令和7年度第2回理事会(令和7年5月23日 ホテル国際 21)

- ① 理事長他選定の件
- ② 任期満了に伴う選考委員選任の件
- ③ 令和7年度さのこ観察会開催の件
- ④ 令和7年度選考委員会の開催の件

令和7年度第3回理事会(令和7年11月7日 ホテル国際 21)

- ① 令和7年度奨励金給付事業研究奨励金給付者及び給付金額選考の件
- ② 令和7年度奨励金給付事業研究奨励金贈呈式の日時の件

令和7年度第4回理事会(令和8年3月10日 ホクト株式会社 会議室)

- ① 令和8年度事業計画(案)承認の件
- ② 令和8年度収支予算書(案)、正味財産増減予算書(案)、資金調達及び設備投資の見込みの承認の件

2. 評議員会

令和7年度第1回評議員会(令和7年5月23日 ホテル国際 21)

- ① 令和6年度事業報告及び決算承認の件
- ② 任期満了に伴う評議員選任の件
- ③ 令和7年度奨励金給付事業の進捗状況の報告

3. 監査会

監査会(令和7年4月17日 ホクト株式会社 会議室)

- ① 令和6年度全期監査

Ⅲ 実施事業 (令和7年4月1日～令和8年3月31日まで)

1. 令和7年度研究奨励金給付事業

・実施内容

令和7年5月よりバイオテクノロジーを主体とする生物科学に関する調査研究、技術開発に対する助成先を一般公募。募集期間5ヶ月で88件の応募があり、各選考委員による書類審査後、令和7年11月7日に選考委員会を開き、17名に対し助成金総額1,310万円を給付することを内定。同日開催の理事会において最終決定いたしました。

全国各地、北海道から九州までの広範囲にわたる 68 機関の大学・研究施設から 88 名の応募となり、内容も大変厳しい選考となりました。研究奨励金給付事業も 29 回を数えるに至り、受賞者総数も累計 455 名、総額 31,205 万円となりました。

研究奨励金助成者一覧については別紙参照

2. 受賞記念講演会

・実施内容

令和 7 年 12 月 15 日、長野市内のホテルメトロポリタン長野に於いて研究奨励金給付事業研究奨励金贈呈式を挙行いたしました。平成 17 年度の奨励金贈呈式より開催しております記念講演を、今回も受賞者を代表して 4 名の先生方に講演をしていただきました。

また、講演会終了後、懇親会において財団関係者と受賞者の皆様方同士親交を深めていただきましたが、中には今後の共同研究の話題が出るほど盛況な懇親会となりました。

・講演内容

演者：斉藤 康二先生

(北里大学 医学部 解剖学 講師)

演題：蛋白尿性腎症の治療に向けた腎糸球体足細胞障害モデルの構築と解析

座長：中山 淳 選考委員長

(信州大学 名誉教授)

演者：甲斐 建次先生

(大阪公立大学大学院 農学研究科 生命機能化学専攻 准教授)

演題：植物だけでなく菌類にも寄生する青枯病菌の巧妙な感染戦略

座長：藤田 智之 選考委員

(信州大学 特任教授)

演者：益村 晃司先生

(広島大学大学院 統合生命科学研究科 特任助教)

演題：メチオニン代謝物と液胞膜トランスポーターが制御する寿命延長メカニズム

座長 田口 悟朗 選考委員 (信州大学 繊維学部 応用生物科学科 教授)

演者：青木 渉先生

(信州大学 社会実装研究クラスター 山岳科学研究所 特任助教)

演題：タマゴタケ類の日本列島における種間競争のメカニズム解明

座長：稲富 聡 選考委員 (ホクト㈱取締役常務執行役員 生産本部本部長)

3. きのこの観察会及び鑑定会

・実施内容

1. 日時 令和7年10月2日（木）～3日（金）
2. 開催地 蓼の海公園
3. 参加人数 54名（一般参加者47名、講師1名、財団関係者6名）
（農業・工業学誌及び新聞で参加者を募集）

令和7年10月2日～3日、蓼の海公園においてきのこ観察会を実施いたしました。さわやかな空気のもと参加者は広大な山林のなか、思い思いの場所できのこを観察いたしました。

1日目の諏訪市駅前交流テラスすわっちゃオでの勉強会では、慶應義塾大学 生物学教室 糟谷大河准教授を講師に迎え、勉強会を開催しました。スライドやレジュメを使い、きのこの生態上の分類方法についての分かり易い説明から、きのこの生態の不思議さ・環境との共生関係など詳しくお話いただき、参加者との活発な意見交換もなされました。2日目は、糟谷准教授を中心に鑑定会を行い、イグチ、ベニタケを中心に約83菌種が判別されました。参加者は写真に収めたり、積極的に質問を行っていました。なお、鑑定を行ったきのこは国立科学博物館に鑑定データと共に乾燥標本として寄贈する取り組みも行っております。

今回のきのこ観察会で27回になりますが、同じ季節でも、地域、気候、植生の異なる場所で、様々なきのこが鑑定され毎年充実した会となっております。今後も継続して交流の輪が広がっていくことを期待したいと思います。

観察会目録に関しては、別紙参照

ホ ク ト 生 物 科 学 振 興 財 団
H o k u t o F o u n d a t i o n f o r B i o s c i e n c e
令 和 7 年 度 研 究 奨 励 金 助 成 者 一 覧

1. タマゴタケ類の日本列島における種間競争のメカニズム解明

信州大学社会実装研究クラスター山岳科学研究所・山岳生態系研究部門

特任助教 青木 渉 (100 万円)

2. きこの多糖による分子構造依存型腸管免疫応答予測基盤の構築

—構造・機能相関に基づく分子設計基盤の創出—

北海道科学大学薬学部薬学科応用薬学部門薬剤学分野

助教 植村 逸平 (100 万円)

3. リポペプチド *ralstonin* の生合成に関与する $Ty r - \beta$ - 水酸化酵素の同定と機能解析

大阪公立大学大学院農学研究科生命機能化学専攻

准教授 甲斐 建次 (100 万円)

4. 食事誘発性 MASH における霜降りひらたけの肝臓保護作用とメカニズムの解明

金城学院大学生活環境学部食環境栄養学科

助教 河野 有華 (100 万円)

5. 蛋白尿性腎症の治療に向けた腎糸球体足細胞障害モデルの構築と解析

北里大学医学部解剖学

講師 斉藤 康二 (100 万円)

6. 東南アジアへの海外展開をめざした簡易型 Epstein - Barr ウイルス DNA 測定系の構築

信州大学医学部附属病院小児科

助教 坂本 謙一 (100 万円)

7. エルゴチオネインによる内皮グリコリックス保護と血栓炎症制御機構の解明

金沢大学医薬保健研究域保健学系

助教 長屋 聡美 (100 万円)

8. 6 - アシルグルコース：見過ごされてきた植物二次代謝産物の生態学的意義の解明

富山県立大学工学部生物工学科植物機能工学講座

教授 野村 泰治 (100 万円)

9. 出芽酵母のメチオニン代謝に関わる新規制御因子の同定と寿命制御機構の解明

広島大学大学院統合生命科学研究科生物工学プログラム

特任助教 益村 晃司 (100 万円)

10. 同属内の 3 種の担子地衣における糖質関連酵素と糖輸送体の比較ゲノム解析

信州大学農学部農学生命科学科山岳圏・森林共生学コース

助教 升本 宙 (100 万円)

11. 未利用資源である日本固有の微生物集合体「天狗の麦飯」を基盤とした天然物探索

北里大学大村智記念研究所

准教授 菅原 章公 (50 万円)

12. 機能性乳化剤への応用を目指したきのこ由来ナノファイバーによる

O/W エマルジョンの安定化機構解明

信州大学アクア・リジェネレーション機構

特任助教 中内 宙弥 (50 万円)

13. 固形がん治療を可能とする光スイッチ型 CAR-T 細胞の開発

(地独) 神奈川県立産業技術総合研究所佐藤「光スイッチ医療創出」プロジェクト

常勤研究員 中嶋 隆浩 (50 万円)

14. 父性アルコール曝露による次世代マウスの社会性行動異常とその神経基盤の解明

京都大学大学院農学研究科食品生物科学専攻栄養化学分野

助教 松居 翔 (50 万円)

15. きのこに含まれる機能性成分の調理・消化に伴う量的変化の解明

高崎健康福祉大学健康福祉学部健康栄養学科

講師 森下 雄太 (50 万円)

16. 温度別寿命測定による老化抑制・寿命延長効果の速度パラメーター解析

独立行政法人国立高等専門学校機構鈴鹿工業高等専門学校生物応用化学科

准教授 今田 一姫 (30 万円)

17. 細胞増殖と細胞死のバランスに着目したお酒やタバコによる胎児への成長速度への影響の測定

兵庫県立西脇高等学校

理科教諭 松下 将也 (30 万円)

ホクト生物科学振興財団 きのこ観察会（長野県諏訪市上諏訪 蓼の海公園）目録
観察日時：2025.10.3
観察場所：長野県諏訪市上諏訪 蓼の海公園
鑑定者：糟谷 大河先生

担子菌門ハラタケ綱ハラタケ目 (Basidiomycota Agaricomycetes Agaricales)

Agaricaceae			ハラタケ科	
<i>Lepiota</i>	<i>magnispora</i>	Murrill		ウタカラカサタケ
<i>Leucoagaricus</i>	<i>rubrotinctus</i>	(Peck) Singe		アカキツネガサ
<i>Macrolepiota</i>	<i>procera</i>	(Scop.) Singer		カラカサタケ
Amanitaceae			テングタケ科	
<i>Amanita</i>	<i>citrina</i> var. <i>citrina</i>	Pers.		コタマゴテングタケ
<i>Amanita</i>	<i>clarisquamosa</i>	(S. Imai) S. Imai		シロウロコツルタケ
<i>Amanita</i>	<i>esculenta</i>	Hongo & I. Matsuda		ドウシントケ
<i>Amanita</i>	<i>fulva</i>	Fr.		カバイロツルタケ
<i>Amanita</i>	<i>imazekii</i>	T. Oda, C. Tanaka & Tsuda		ミヤマタマゴタケ
<i>Amanita</i>	<i>pantherina</i>	(DC.) Krombh.		テングタケ
<i>Amanita</i>	<i>rubescens</i>	Persoon		ガントケ
<i>Amanita</i>	<i>satotamagotake</i>	M. Kodaira, N. Endo & A. Yamada		サトタマゴタケ
<i>Amanita</i>	<i>vaginata</i>	(Bull.) Lam.		ツルタケ
Clitocybaceae			カヤタケ科	
<i>Collybia</i>	<i>alboflavida</i>	(Peck) Kauffman		アシボンザラミノシメジ
<i>Collybia</i>	<i>nuda</i>	(Bulliard) Z.M. He & Zhu L. Yang		ムササキシメジ
<i>Clitocybe</i>	Sp. 1			シロゲカヤタケ(仮称)
Gomphaceae			ラッパタケ科	
<i>Turbinellus</i>	<i>floccosus</i>	(Schwein.) Earle ex Giachini & Castellano		ウスタケ
Hydnangiaceae			ヒドナンギウム科	
<i>Laccaria</i>	<i>bicolor</i>	(Maire) P.D. Orton		オオキツネタケ
Hygrophoraceae			ヌメリガサ科	
<i>Cuphophyllus</i>	<i>virginus</i>	(Wulfen) Kovalenko		オトメノカサ
Hymenogastraceae			ヒメノガステル科	
<i>Gymnopilus</i>	<i>penetrans</i>	(Fries) Murrill		キツムタケ
<i>Gymnopilus</i>	<i>picreus</i>	(Pers.) P. Karst.		チャツムタケ
Inocybaceae			アセタケ科	
<i>Inocybe</i>	Sp. 1			アセタケ属の1種
<i>Inocybe</i>	<i>calamistrata</i>	(Fries) Matheny & Esteve-Raventós		アオバシアセタケ
<i>Inocybe</i>	<i>maculata</i>	(Boudier) Matheny & Esteve-Raventós		シラゲアセタケ
Lyophyllaceae			シメジ科	
<i>Lyophyllum</i>	<i>semitale</i>	(Fries) Kühner		スミゾメシメジ
Lycoperdaceae			ホコリタケ科	
<i>Lycoperdiscus</i>	<i>lividus</i>	(Persoon) R.L. Zhao & J.X. Li		キノコリタケ
<i>Lycoperdon</i>	<i>caudatum</i>	J. Schröt.		アラゲホコリタケモドキ
<i>Lycoperdon</i>	<i>nigrescens</i>	Wahlenb.		クロホコリタケ
<i>Lycoperdon</i>	<i>perlatum</i>	Pers.		ホコリタケ
<i>Utraria</i>	<i>echinata</i>	(Persoon) Quélet		アラゲホコリタケ
Marasmiaceae			ホウライタケ科	
<i>Marasmius</i>	<i>aurantioferrugineus</i>	Hongo		カバイロオオホウライタケ
Mycenaceae			クズギタケ科	
<i>Mycena</i>	<i>haematopus</i>	(Persoon) P. Kummer		ヂシオタケ
<i>Mycena</i>	<i>pelianthina</i>	(Fries) Quélet		アカバシメジ
<i>Mycena</i>	Sp. 1			クズギタケ属の1種
<i>Xeromphalina</i>	<i>caucinialis</i>	(Fries) Kühner & Maire		キチャョウライタケ
Omphalotaceae			ツキヨタケ科	
<i>Gymnopus</i>	<i>densilamellatus</i>	Antonin, Ryoo & Ka		ミツヒダニオイカレバタケ
Phyllotopsidaceae			キヒラタケ科	
<i>Tricholomopsis</i>	<i>decora</i>	(Fr.) Singer		キサマツモドキ
Physalaciaceae			タマハリタケ科	
<i>Armillaria</i>	Sp. 1			ナラタケ属の1種
Pleurotaceae			ヒラタケ科	
<i>Pleurotus</i>	<i>ostreatus</i>	(Jacquin) P. Kummer		ヒラタケ
Pluteaceae			ウラベニガサ科	
<i>Pluteus</i>	<i>cervinus</i>	(Schaeffer) P. Kummer		ウラベニガサ
Psathyrellaceae			ナヨタケ科	
<i>Coprinellus</i>	<i>micaceus</i>	(Bulliard) Vilgalys, Hopple & Jacq. Johnson		キララタケ
<i>Coprinellus</i>	<i>xanthothrix</i>	(Romagn.) Vilgalys, Hopple & Jacq. Johnson		コキララダマシ
<i>Psathyrella</i>	Sp. 1			ナヨタケ属の1種
Squamanitaceae			カブラマツタケ科	
<i>Cystoderma</i>	<i>amianthinum</i>	(Scop.) Fayod		シワカラカサタケ
<i>Cystoderma</i>	<i>japonicum</i>	Thoen & Hongo		オホシワカラカサタケ
Strophariaceae			モエギタケ科	
<i>Hypholoma</i>	<i>fasciculare</i>	(Huds.) P. Kumm.		ニガクリタケ
<i>Pholiota</i>	<i>spumosa</i>	(Fr.) Singer		キノメツムタケ
<i>Pyrrhulomyces</i>	<i>astragalinus</i>	(Fr.) E.J. Tian & Matheny		アカツムタケ
Trichokmataceae			キシメジ科	
<i>Aspropaxillus</i>	<i>giganteus</i>	(Sowerby) Kühner & Maire		オオイチャウタケ
<i>Tricholoma</i>	<i>aponaceum</i>	(Fr.) P. Kumm.		ミキシメジ

担子菌門ハラタケ綱イグチ目 (Basidiomycota Agaricomycetes Boletales)

Boletaceae			イグチ科	
<i>Boletus</i>	<i>hiratsukae</i>	Nagasawa		スズケヤマドリタケ
<i>Chalciporus</i>	<i>piperatus</i>	(Bulliard) Bataille		コシヨウイグチ
<i>Harrya</i>	<i>chromipes</i>	(Frost) Halling, Nuhn, Osmundson & Manfr. Binder		アケボノアワタケ
<i>Leccinum</i>	<i>scabrum</i>	(Bulliard) Gray		ヤマイグチ
<i>Rossbeevera</i>	<i>eucyanea</i>	Orhira		アホノメクロツブタケ
<i>Tylopilus</i>	<i>felleus</i>	(Bulliard) P. Karsten		ニガイグチ
Diplocystidiaceae			ディプロシスチジア科	
<i>Astraeus</i>	<i>ryocheoninii</i>	Ryoo		ツチグリ
Gomphidiaceae			オウギタケ科	
<i>Gomphidius</i>	<i>roseus</i>	(Fries) Fries		オウギタケ
Paxillaceae			ヒダハタケ科	
<i>Paxillus</i>	<i>involutus</i>	(Batsch) Fr.		ヒダハタケ
Suillaceae			ヌメリイグチ科	
<i>Suillus</i>	<i>bovinus</i>	(Linnaeus) Roussel		アミタケ
<i>Suillus</i>	<i>grevillei</i>	(Klotzsch) Singer		ハナイグチ
<i>Suillus</i>	<i>luteus</i>	(L.) Roussel		ヌメリイグチ
<i>Suillus</i>	<i>spectabilis</i>	(Peck) Kuntze		キノボリイグチ
<i>Suillus</i>	<i>viscidus</i>	(L.) Roussel		シロヌメリイグチ

担子菌門ハラタケ綱スッポンタケ目 (Basidiomycota Agaricomycetes Phallales)

Clathraceae			アカカゴタケ科	
<i>Pseudocolus</i>	<i>fusififormis</i>	(E. Fischer) Lloyd		サンコタケ

担子菌門ハラタケ綱タマチョレイタケ目 (Basidiomycota Agaricomycetes Polyporales)

Fomitopsidaceae			ツガサルノコシカケ科	
<i>Fomitopsis</i>	<i>pinicola</i>	(Sw.) P. Karst.		ツガサルノコシカケ
<i>Phaeolus</i>	<i>schweinitzii</i>	(Fr.) Pat.		カイメンタケ
Meruliaceae			シワタケ科	
<i>Hapalopilus</i>	<i>rutilans</i>	(Persoon) Murrill		アカゾメタケ
Polyporaceae			タマチョレイタケ科	
<i>Cryptoporus</i>	<i>volvatus</i>	(Peck) Shear		ヒトクチャタケ
<i>Lenzites</i>	<i>betulinus</i>	(Linnaeus) Fries		カイガラタケ
<i>Pycnoporus</i>	<i>sanguineus</i>	(L.) Murrill		ヒイロタケ
<i>Trametes</i>	<i>versicolor</i>	(L.) Lloyd		カワラタケ
<i>Trichaptum</i>	<i>biforme</i>	(Fr.) Ryvarden		ハカワラタケ

担子菌門ハラタケ綱タバコウロコタケ目 (Basidiomycota Agaricomycetes Hymenochaetales)

Ricknellaceae			ヒナノヒガサ科	
<i>Rickenella</i>	<i>fibula</i>	(Bull.) Raithehl.		ヒナノヒガサ

担子菌門ハラタケ綱ベニタケ目 (Basidiomycota Agaricomycetes Russulales)

Russulaceae			ベニタケ科	
<i>Lactarius</i>	<i>chrysorrheus</i>	Fries		キチチタケ
<i>Lactarius</i>	<i>hatsudake</i>	Nobuj. Tanaka		ハツタケ
<i>Russula</i>	<i>compacta</i>	Frost		アカカバイロタケ
<i>Russula</i>	<i>cyanoantha</i>	(Schaeffer) Fries		カワリハツ
<i>Russula</i>	<i>rosea</i>	Persoon		ヤブレベニタケ
<i>Russula</i>	<i>delica</i>	Fr.		シロハツ
<i>Russula</i>	<i>laurocerasi</i>	Melzer		クサハツモドキ
<i>Russula</i>	<i>senecis</i>	S. Imai		オキナクサハツ

子実菌門チャワントケ綱チャワントケ目 (Ascomycota Pezizomycetes Pezizales)

Helvellaceae			ノボリリュウタケ科	
<i>Helvella</i>	<i>crispa</i>	Bull.		ノボリリュウタケ
Pyrenomataceae			ヒロネマキン科	
<i>Aleuria</i>	<i>aurantia</i>	(Persoon) Fuckel		ヒイロチャワントケ

観察種数83種(未同定種含む)

事業報告の附属明細書

1. 公益目的事業の実施状況

① 公益目的事業の実績

- ・本編Ⅲ実施事業のとおり

② 公益性確保の取組について

- ・各事業の実施に当たっては、外部有識者を含む選考委員会や、講師との協議の上実施内容を決定している。
- ・助成事業については、直接の利害関係のない外部有識者を含む選考委員会の審議を経て助成先を決定している。

2. 運営体制の充実を図るための取組

① 公益法人内部における規範

- ・個人情報保護規程を策定し、職員に周知している。

② 法人運営における具体的取組み

- ・R6 年度に各種規程の整備を行い、それらに依ってより適切な法人運営を行うよう努めている。(R7 年度整備中のものあり)
- ・理事、監事とも法人外部の者を入れ、専門家や第三者の視点で事業執行をチェックしている。